

発達障害・情緒障害通級指導教室 自立活動 学習指導案
～集中力・コミュニケーション能力に課題のある児童の個別学習～

令和〇年 〇月〇日（金） 第3校時
場所 〇〇 小学校 通級指導教室
指導者〇〇 〇〇

1 対象児童 3年 男子

2 児童の実態

本児童は明るく素直で、誰に対しても積極的に話しかけることができる。一方で、友人の名前を覚えることが苦手で、友人関係は限られている。生活の中では衝動性が高く、落ち着きがない。気になったことがあると、周りの状況に関わらず行動にうつしてしまうことが多い。行事前などに事前に予定を確認し、約束を決めることで行動を自制できることが増えてきた。私生活でも、家族と出かけている時に一人離れて行動してしまったり、時には全く面識のない人に話しかけてしまったりすることもあるようで、保護者も心配している。そのため、家庭での様子を聞き取って、通級での学習課題に繋げることも多い。

一斉指導では、指示を聞き逃すことが多く、作業に遅れが出てしまうことがある。また、学習においては、集中力が続かず姿勢の保持が難しいため、やる気がなくなった時の離席が目立つ。個別学習では集中を維持しやすい学習環境を整え、指示を短くすること、また様子を見ながら課題に取り組む時間を徐々に長くすることなどを意識して指導している。また一斉指導で習得が難しい学習内容を把握し、スモールステップで継続的に学習を続けている。ひらがな、カタカナの正しい書き方が定着してきたので、現在は、苦手意識の高い作文の学習に集中して取り組んでいる。

通級では週に1時間の個別学習の中で「気持ちよく生活するために、今、必要なことはなにか。」という視点を大切に、優先順位をつけて自立活動を計画している。学級担任、保護者と連携して本人の実態把握、情報交換することで、徐々に学級での適応状況の改善がみられるようになってきている。

3 個別の支援計画

(1) 実態の整理

	家庭	学級	WISC 検査
生活・行動	・落ち着きがない。 ・気が散りやすい。 ・興味があることには、過度に集中して声が届かない。 ・買い物中に、急にいなくなる。 ・身の周りの整理整頓が苦手。	・落ち着きがない。 ・提出物を出し忘れる。 ・身の周りの整理整頓が苦手。 ・話を聞いておらず一斉での指示が通らないことがある。 ・授業中に姿勢が崩れやすい。 ・気になることがあると、席から離れてしまう。 ・遠足で自由に行動してしまうこともあった。	・多動性。 落ち着きがない。 体が動いてしまう。 ・注意力の持続性。 時間が長くなると、集中力が落ちる。複数のことに同時に注意を向ける力が弱い。 ・衝動性。 触ってはいけないと言われていたものを思わずさわる。
対人関係	・身近な人の名前を覚えない。 ・知らない人に話しかける。 ・目の前で話しかけていても質問に答えられない。 ・友達の名前が出てこない。	・友達の名前が覚えられない。 ・休み時間遊ぶ子が少ない。 ・攻撃的でないが、思い込みや勘違いでトラブルになることもある。	

学習	・宿題は言われたらする。 ・苦手なものはしない。 ・音読でつかえる。 (ひらがなカタカナ漢字△) ・作文が苦手。 ・運動も苦手なものがある。	・授業中にぼーっとしている。 ・手悪さをしていることがある。 ・話を最後まで聞かずに活動しはじめてしまうことがある。 ・覚えていない文字がある。(ひらがなカタカナ) ・作文が苦手。 ・鍵盤ハーモニカが苦手。	・短期記憶に課題。 ・聴覚よりも視覚が強い。 ・問題を一度で聞き取れない。 ・計算は指を使う。 ・音読に課題がある。
----	---	--	--

(2) 目標・指導方針

(学習指導要領「自立活動」との関わり)

①落ち着いて、生活できるようにする。

(1 健康の保持 2心理的安定)

- ・具体的場面での状況を整理し、適切な行動を知る。
- ・課題を共に把握し、気持ちよく生活するために必要なスキルを身に付ける。

②集中力を高め、学習課題に意欲的に取り組むことができるようにする。(4 環境の把握)

- ・学習内容、教材教具を工夫し、興味を持って学習に取り組むことができるようにする。
- ・着席する時間、学習の取組時間を徐々に長くしていくことで、集中力を伸ばす。
- ・困難を感じている学習内容には、学びの助けになるツールを使用して支援するとともに、スモールステップで継続的に取り組み、理解と定着を目指す。

③コミュニケーション能力を高める。

(3 人間関係の形成 6コミュニケーション)

- ・友人関係を広げ、良好な関係を築くために、友達の名前を覚える。
- ・自分の気持ちを、言葉で伝えることができるようにする。

(3) 学習指導計画

項目	学習内容・学習活動・支援計画	教材
SST (ソーシャルスキルトレーニング) ☐ 生活支援 ☐ 自己理解 ☐ 他者理解 ☐ コミュニケーション	・安全に、気持ちよく生活するためのスキルを身に付ける。 ・生活のふりかえりをして、学級での生活、日常生活での課題を把握し、解決策や正しい行動を学ぶ。約束の確認。 ・身の周りの整理整頓、持ち物の管理の仕方を知り、練習する。(引出しの整理、鉛筆の削り方、給食着のしまい方等) ・適切な学習態勢を学び、練習する。(正しい座り方、鉛筆の持ち方、話の聞き方等) ・学級での学習に必要な支援ツールの使用方法を習得する。(ひらがなカタカナカード 九九カード 位表 片付けカード等) ・共感的に日常の話を聞くことで、気持ちの安定を図る。 ・質問をしながら会話をつなげることで、日常生活での意思表示の練習につなげる。 ・友人関係を築くために、友達の名前を覚える。	・生活ふりかえりカード ・整理整頓カード ・お名前クイズ(パワーポイント)
特別活動 ☐ 学期ごとのめあて ☐ 行事関係	・日常での目標を設定し、達成のための行動を決め、ふりかえりをする。(学級での適応状態に応じて期間を決める。) ・行事の予定を確認する。不安なことは事前に聞きとり、解決策	・めあてカード ・行事予定表

□季節の制作物 (→手先指先)	を考える。また、正しい行動を知り、行事後にふりかえりをする。 ・行事での目標を設定し、意欲的に参加できるようにする。	
ビジョントレーニング 手先・指先	・課題を通して、注意、集中の力を高める。 ・注目すべきところを言語化して伝えて取り組ませる。 ・微細運動を行い、手指の操作性を高める。	・プリント ・タブレット
国語 □聞く □ことば(漢字) □書く(話す)	・聞きとり練習で、最後まで集中して聞く力を高める。 ・ひらがな、カタカナの復習に取り組み文字の基礎基本の定着を図る。 ・漢字学習への意欲を上げるために、補助的な支援効果の高いタブレット教材を使用する。 ・苦手な作文は、①質問に答える ②メモで整理をする ③文に表す とスモールステップで取り組ませるとともに、文法などの基本的知識を身に付けさせる。	・プリント ・聞き取り CD ・ことばカード ・タブレット
算数 □計算 □空間認知	・苦手なかけ算九九に継続的に取り組むことで定着を図る。 (4と7の段)その他の単元も学級での困難さに応じて、理解しやすいように個別学習。 ・得意な空間認知トレーニングには、高い難易度で取り組ませ、得意を伸ばし自信をつける。	・プリント ・九九カード ・タブレット
体を動かす	・バランスボールやトランポリンを使って体幹を鍛え、姿勢の維持につながるようにする。 ・学級から出ている体育の基礎トレーニングの宿題にも家庭と連携して継続的に取り組み、筋力と柔軟性を向上させる。	・バランスボール ・トランポリン

4 本時の構成

(1)指導内容 目標達成のための個人トレーニング

(2)指導目標 目標①②③

(3)展開

(個別学習 45分で実施)

学習活動・内容	指導上の留意点および支援(・) 評価(○) 課題の目的(⇒)	準備	時間
1 あいさつ 本時の予定の確認	・本時の予定を確認し、見通しを持って取り組むことができるようにする。	予定確認	1
2 本時の学習課題 (1)カウンセリング 生活のふりかえり	⇒ 気持ちの安定・課題の把握 ・共感的に話を聞き、気持ちの安定を図る。 ・課題を把握し、SSTにつなげる。 例①) 全校遠足の予定、きまり、リーダーの名前の確認。→次回ふりかえり。 例②) 対人トラブル時の状況整理と、自己理解、他者理解。今後の行動確認。	プリント	1
(2) SST 3年〇組お名前クイズ	⇒ 「友達の名前」を意識して生活できるようにする。	タブレット プリント	5

(3) ビジョントレーニング 目のストレッチ 違いはどこ？ 重なり図形 欠所補完	・興味を持てるようにタブレットを使用。 ・継続的に取り組み、生活での意識を変える。 ⇒集中力を高める。 手先・指先の巧緻性を高める。 ・指示を最後まで聞き、細部に気を付けて作業をさせる。 ・欠所補完は「数、形、大きさ」に注目させる。 ・得意な課題に取り組ませて賞賛し、自己肯定感とともに、課題への集中力を高める。 ○指示をしっかりと聞き、最後まで丁寧に取り組むことができたか。	タブレット プリント	10
(4) 国語・算数 語彙カード 聞き取り練習 ことば(カタカナ) 漢字学習(アプリ) かけ算九九	⇒困難を感じている学習内容の理解と定着を図る。 ・語彙カードで語彙を増やすとともに、読めない文字を把握し、次回の課題にする。 ・継続的に取り組み、内容の定着を図る。 ・苦手な学習の取組への抵抗感を低くするため、積極的にタブレットを活用する。	カード CD プリント タブレット	15
(5) 体を動かす かえるの足うち ブリッジ	⇒継続的に取り組み、体幹を鍛え、柔軟性を高める。(=家庭とも連携を図る。)		2
3 お楽しみ学習 ダブル スティッキー など	⇒気持ちをリフレッシュさせ、在籍学級での学習に向かう意欲を持たせる。 ○時間とルールを守り楽しく活動できたか。	カード ゲームなど	8
4 ふりかえり 5 あいさつ	・本時の学習を振り返り、自己評価をする。 ○達成感と充足感を持ち、気持ちのよいあいさつで終わることができたか。		2 1

(4)備考:集中力を維持し、高めるための工夫

① 教室環境

- ・教室内の整理整頓とともに、視界に入るものが極力少なくなるように、座席を配置する。
- ・教室内をゾーニングして、学習内容に応じて、場所を変える。(学習→席 運動→床 お楽しみ学習→座卓)

② 教材・ツール

- ・興味を持ちやすい題材、内容を工夫する。
- ・取組時間の短い課題を種類多く取り組ませ、徐々に1つ1つの課題の取組時間を伸ばしていく。
- ・タイマーで視覚的に時間を意識させる。
- ・どうしても体が動き出してしまう時は、時間を決めて体を動かすなどのリフレッシュタイムを入れる。
- ・姿勢の維持を意識させるために、体と机の間にぬいぐるみを入れたり、バランスボードを踏ませる。

③ 指導

- ・聞く態勢に入らせてから、短く、明確に、指示を出す。
- ・理解が難しい場合は、書いて伝える。